

2006年5月8日

近畿労働金庫

理事長 水上 義博 様

阪神・淡路大震災 10 年事業

## 「近畿ろうきん NPO アワード」 選考結果報告書

近畿ろうきん NPO アワード 審査委員会

審査委員長 古田 豊彦

去る 2006 年 4 月 24 日に開催された「近畿ろうきん NPO アワード」審査委員会で決定した受賞団体について、選考結果を以下の通り報告いたします。

### 1. 審査にあたって

今回審査に当っては、2006 年 3 月末での募集締め切りの後、労金側の事務局から事前送付された応募書類をもとに各委員が事前の書類審査を行なったうえで、4 月 24 日に審査委員会を開催して各受賞団体を決定しました。

審査委員会には審査委員 5 名全員が出席し、互選により審査委員長を選出したうえ、審査委員会指針に則って、事前審査の内容を参考にしながら合議を進め、大賞 1 団体、優秀賞 2 団体、奨励賞 7 団体を決定しました。審査委員は下記の通りです（敬称略）。

審査委員長 古田 豊彦

審査委員 田中 稔昭

審査委員 早瀬 昇

審査委員 矢守 克也

審査委員 法橋 聡

### 2. 決定、総評

本アワードには、近畿一円（奈良、和歌山を除く）の計 18 の団体から、それぞれに優れた着眼点・発想をもった特徴的な応募をいただきました。活動分野としても、直接の被災地支援だけでなく、様々な理由で災害弱者となる人々の防災・減災をテーマにしたもの、あるいはコミュニティにおける防災リーダーの養成をテーマにしたもの、芸術文化や住宅復興を切り口に被災地支援を行うものなど、福祉・まちづくり、子供、文化などの多岐にわたる分野から応募がありました。それぞれ市民による主体的な取り組みであるという視点からも、非常に社会的な意義の高い事業プランが集まったと言えます。

審査にあたっては、事業そのものの先駆性、社会ニーズへの対応性、あるいは実現性、波及性などの項目に加えて、事業実施団体の活動歴や継続性、あるいは組織運営体制の項目を基準にしながら、審査委員の真摯な協議によって総合的な判断をしました。

いずれも甲乙つけ難い提案のなかから受賞団体を決定した訳ですが、特に、大賞・優秀賞を受賞した3団体は、事業計画の信頼性や実現性もさることながら、社会ニーズへの対応性、先駆性などが高く評価されました。最終的にこれらの提案には及ばないながらも、実現性や独自性などの点で高く評価された7団体が奨励賞に決定しました。結果、受賞団体は、近畿一円からの応募を受けて広範囲からの選出となり、また、直接の被災地支援だけでなく、福祉・まちづくり、子供、文化などの多岐にわたる分野から選出されるなど、地域・分野ともに広がりを持った選出となりました。

各受賞団体の事業プランや選考に当たっての講評については、次ページ以降をご確認ください。

なお、今回、惜しくも選にもれた団体についても、その事業プランの内容や熱意は受賞団体に匹敵するものであったことを一言付け加えておきたいと考えています。

### 3. 今後への提言として

今回の「近畿ろうきんNPOアワード」は、阪神・淡路大震災10年事業の一環として、近畿ろうきんとしてはじめての公募型の助成プログラムのスタイルで実施されたものです。2005年1月17日から2006年3月末の期間における「無担保住宅ローン」の新規利用額の0.1%相当を助成金として提供することを通して、勤労者の住まいづくりを応援するろうきんローンの利用を、地域での防災・減災・被災地支援につなげていこうとするものです。

応募いただいたプランは、いずれも切実な社会的ニーズに対応した市民活動団体ならではの優れた事業プランであったこととあわせて、いまだ万全とはいえない災害弱者への支援体制や平時からの防災・減災への取り組みの必要性などを考えたとき、今回の「NPOアワード」の持つ社会的意味は極めて大きいものがあったと考えるところです。また、ろうきん利用の促進が地域貢献につながるという新たな仕組みを取り入れながらろうきんの社会的アナウンスを高めるなど、まさに、グッドマネーバンクろうきんに相応しい事業であったと考えています。

審査委員一同として、今回のようなろうきんの特色を生かした地域貢献型・利用者参加型の事業を単発のものに終わらせず、近畿ろうきんのグッドマネーバンクの実践として、さらに創意工夫していただいて、ぜひ、今後もより発展的にこのアワードの仕組みを継続いただきたいと強く念ずる次第であります。